

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.22

ノシメトンボ

さあ、秋ですねえ。「秋」といえば、「赤とんぼ」だと思っているあなた！本当ですか？最近、真っ赤なトンボ、見かけましたか？私は、とんと見かけないのですが……。さて、職員玄関に向かう花壇のアジサイ。枝が刈り込まれていますが、その枝先に、結構な数の「トンボ」が止まっていることはご存じですか？ある日の朝など、まるで、「火垂るの墓」の一場面のように、トンボがパーッと一斉に飛び立ち、びっくりしました。（わかりますか？つかまえてきた蛸を一斉に放つ、あの場面です。）そのトンボの特徴は、「羽の先が黒い」ことです。早速調べてみると……。 「ノシメトンボ」でした。「ノシメトンボ」は、「赤くならない赤とんぼ」という、謎の一言が付け加えられているトンボです。赤くならないんだったら赤とんぼじゃないんじゃないか！と思うかもしれませんが、案外、「赤とんぼ」は「赤くならない」ものもいることがわかりました。ここまで調べて、ふと、「なぜ、トンボは、枝の先のようなところに止まっていることが多いんだろう？」と気になりました。調べてみると……。 「トンボ」も変温動物（昆虫は皆変温動物です。）なので（以前、紹介しましたね！そうですね、トカゲたちと一緒にです。）自分で体温を調節することが難しく、活動前に、なるべく効率よく全身に日光を浴び、体温を上げているのだそうです。なるほど！だから、朝、早い時間、一斉に枝に止まっていたんですね！このトンボは、小さいわけではありませんが、オニヤンマ、ギンヤンマなどという、スーパースターに比べたら、小ぶりでも、羽音も大きくありません。でも、羽先の褐色がなかなかおしゃれなトンボです。そういえば、白井中の周りでは、「イトトンボ」「ハグロトンボ」など、美しいトンボもよく目にします。トンボは「卵」を水の中に産むので、水質が汚染されると「ヤゴ」が育ちません。それを思えば、この白井中の周辺は、美しい環境が保たれているということなのでしょう。

さて、話は変わりますが、秋といえば、「蜂」の危険性が増す季節でもあります。「蜂」の巣は、木の上など高いところにあるだろう、と高をくくっていると、とんでもない被害にあいます。人間の生活圏に近いところにどんどん進出している「蜂」は、思いがけないところに巣を作っています。例えば、土の中、木のうろ、戸袋の中……。いわゆる「スズメバチ」の類は、大体10月ぐらいまで活発に活動します。冬を超えるのは女王蜂だけですが、秋口にかけて巣が最高潮に大きくなるにしたがって、「蜂」の攻撃性は増すといわれています。うかつに足で巣をつついたら大変です。でも、たいがい、警戒音を発してくるので、それに気づいたら、そっと離れてくださいね。

